

# 俳句の基本的なルール

## ① 五・七・五にする。

俳句は、五音・七音・五音に分かれています。この、五・七・五の区切りの中に言葉をはめていきましよう。

かみこ  
上五  
なかしち  
中七  
しもい  
下五

五

七

五



## ② 季語をいれる

「五・七・五」の型の中のどこかに季語をはめ込む

## ③ 切れ字を使う

切れ字とは、「**切れ**」の直前に置かれた**単語のこと**を指します。代表的なものには、「や」「けり」「かな」「なり」「たり」「ぬ」「ぞ」「し」があります。例えば、俳句の中でも有名な句である松尾芭蕉の

古池や 蛙飛び込む 水の音

という句があります。これは、古池に蛙が飛び込んでいる小さな音「え」も聞こえてくるべらい静かだという場面を伝えています。

この俳句で切れ字にあたる単語は、「古池や」の「**や**」です。「こ」に切れ字を入れることにより、「古池や」の後に間を持たせることができます。

切れ字を使って分を切断することにより、その「間」で、より深くイメージすることができ、読み手はそこに注目を集め、「余韻」つまり後々まで残る「感動」へ誘うことができます。